



### ◇3年修学旅行 5/15(水)・16(木)・17(金) 広島・山口

2泊3日の3年修学旅行を実施することができました。生徒200人規模の大移動は大変でしたが、晴天に恵まれ、無事に帰ってくることができました。

1日目は、大和ミュージアム・てつのくじら館・海上自衛隊呉地方隊などを見学しました。

2日目は、被爆体験講話を聴き、広島平和記念資料館を見学した後、平和集会を開きました。

午後は、宮島を巡りました。観光客がとても多かったです。

3日目は、萩市内をサイクリングしました。吉田松陰の神社が印象的でした。

行きも帰りも、他学年の先生たちが保護者の自動車の誘導等を手伝ってくれました。生徒を送り出してくださった保護者の方々、写真屋さんや旅行会社の方々等、さまざまな方々の支えのもとに無事に修学旅行を終えることができました。ありがとうございました。

5/16(木)には、2年生は熊本バス旅行、1年生は福岡バス旅行を楽しみました。楽しかったことはよい思い出にし、学んだことはこれからの学校生活に活かしていくものと思っています。

### ◇生徒総会(5/24 金)

生徒たちが、自分たちで意識を高く持ち、とてもきちんとした説明や質疑応答ができました。自分たちで自分たちの学校をつくっていかうとする意思を感じるすばらしい生徒総会でした。これからの学校生活や行事も大いに楽しみにになりました。

### ◇全校朝会(6/4 火)の話

吉田松陰は、「だれにも才能・よいところがある」「教え合い、学び合うことが大切」という考えを持っていました。アメリカの進んだ文化を学ぼうと密航を企てましたが、当時日本が鎖国状態であったことから失敗し、牢獄に入ることになりました。その牢獄の中で松陰は他の人たちと対話を重ね、それぞれの得意な書道や俳句などを教え合い、学び合うということに取り組みました。たくさんの本を読んでいた松陰ですが、まわりの人たちからも素直に話を聞いて教わったそうです。そのうちに自分の人生をあきらめていた人たちがどんどん元気になってやる気を高め、刑を終えたらもう一度人生をがんばろうという前向きな気持ちになっていったそうです。その後、松下村塾でさまざまな塾生たちと学びを深めていきます。期間は1年半ほどだったのですが、あの小さな松下村塾に90名ほどの塾生があちこちから入れ替わり立ち替わり塾を訪れて、喧嘩がくがく自分の考えを出し合い、交流をかさねたそうです。まさに、教え合い、学び合い、共に考えるということです。塾からは高杉晋作、久坂玄瑞、伊藤博文、木戸孝允、山県有朋などなど後に幕末から明治にかけて活躍する俊才を輩出しています。その中で、人の話を特に真剣に聴くことができる伊藤博文は、人々からかわいがられ、自分の道を開いて初代内閣総理大臣になりました。「だれにも才能・よいところがある」「教え合い、学び合うことが大切」とてもいい考え方ですね。

### ◇フリー参観、部活動選手激励式(6/9日)ありがとうございました

朝は雨が降る天気でしたが、675名の保護者や地域の方々に授業参観をしていただきました。生徒たちが一生懸命に真剣に授業を受けている姿や先生方の熱心で工夫のある授業づくりにたくさんの感心の声をいただくことができました。

午後は、体育館で中体連・展示会・コンクールに向けた部活動選手激励式を行いました。選手たちの晴れやかで、かつこよくて、まぶしい姿があり、力強い決意表明や激励、応援の生徒たちや保護者のみなさんからの大きな温かい拍手がありました。最後に、部活動の部長たちや先生方からの熱いエールや歌声で大いに盛り上がりしました。

きっと熱い気持ちを持って、粘り強く力を発揮してくるものと活躍を期待しています。